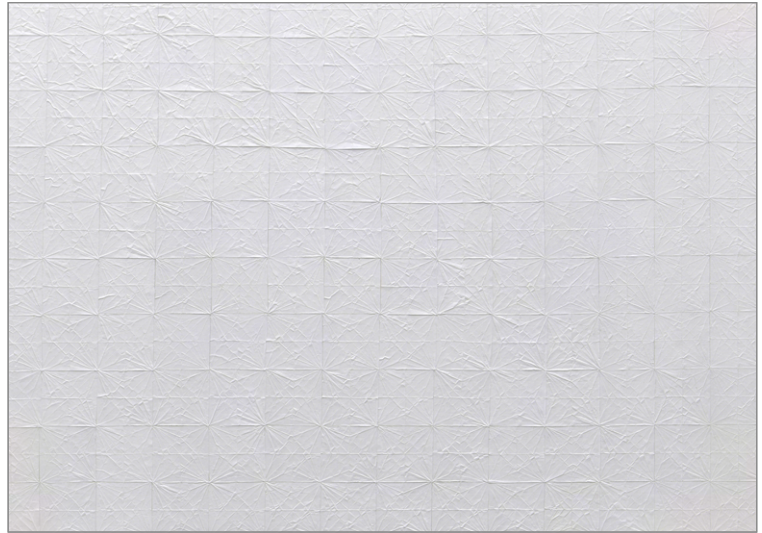




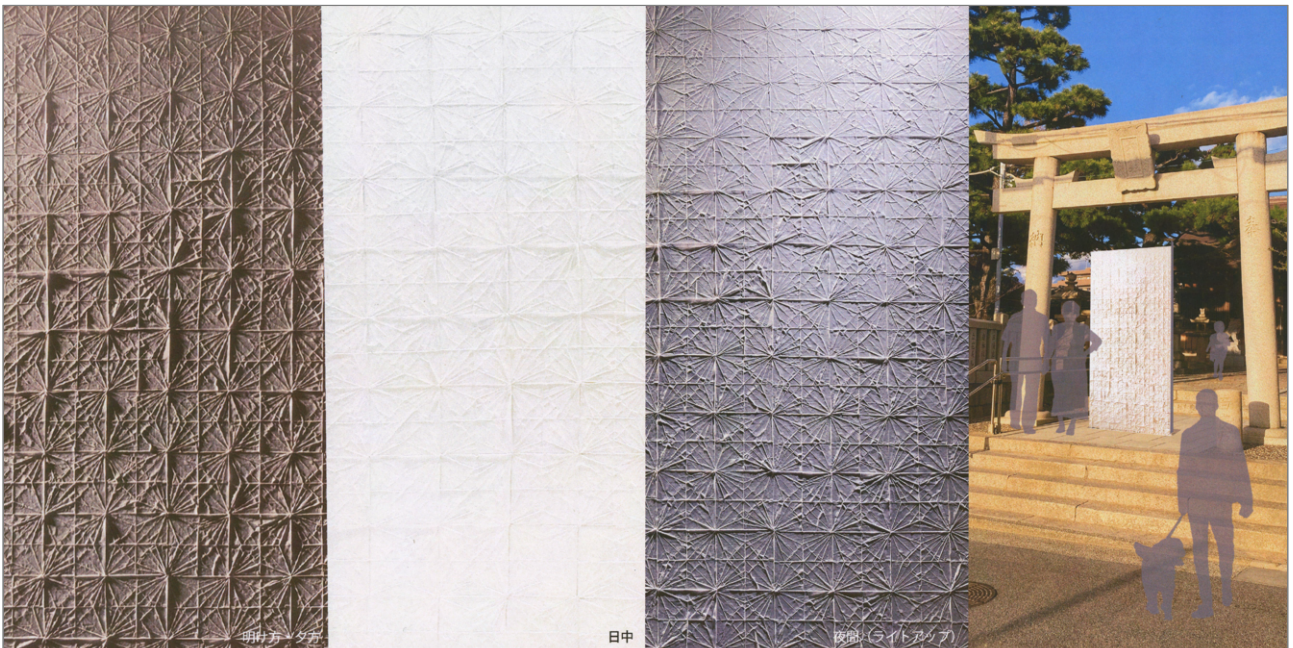
NO. 20230162



デザイン画

作者名 マツムラ ヒロミ ナカムラ スグル  
松村 宏美 / 中村 卓

作品名 千羽鶴壁



空間イメージ図

### 想定する空間

神社への奉納や展示をメインとするだけでなく、日常使いとしても和室の表具や屏風・衝立として用いることができます。

### デザインコンセプト

古来から長寿の象徴である折り鶴は、現在では幸福祈願、慰安、病氣平癒祈願などの願いが込められた千羽鶴へと発展し、現代においてもその折り方を知らない方はいないほど根強い文化として私たち日本人の暮らしに深く浸透しています。この壁は、一度折られた千羽鶴を、もとの平面に再び展開し平滑な面に貼り付けて再構成したものです。個々に微妙に異なるその折り皺の表情や折り皺が生む陰影、凸凹とした質感などを楽しむことができます。そして、この4.5cmの正方形で作られた折り鶴は、縦に50個（高さ2250mm）、横に20個（幅900mm）を並べることで、合計一千羽の鶴で埋め尽くされた、一枚の願いの壁となります。日射や照明の加減と見る角度によって、彫りの深い／浅いや、柔らかな紙の質感／メタリックな質感など、設置・施工する環境によって想像以上の多様な表情を提供するデザインです。「ふるきをたずねてあたらしきをしる（温故知新）」とあるように、脈々と受け継がれてきた文化の、今日的な新たなスタートととして私たちは「千羽鶴壁」を提案します。